

### 先輩から③ 「交流学級」

交流学級とは、交流及び共同学習で、特別支援学級（特別支援学校）と共に学習をする通常の学級のことです。

交流及び共同学習では、障害のある子と障害のない子が共に活動します。この活動には、相互のふれ合いを通じて豊かな人間性を育む交流の側面と教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面があります。交流及び共同学習では、この側面を分かちがたいものとして捉え、障害のある子の自立と社会参加を促進するとともに、社会を構成する様々な人々と共に助け合い支え合って生きていくことを学ぶ機会となります。この点から交流及び共同学習は、双方の子供たちの社会性や人間性を育成する学習であり、共生社会の形成に必要な学習と言えます。

以下、交流及び共同学習を効果的に進めていくため、交流学級との連携・協力のポイントをまとめました。

#### 【交流及び共同学習を進めるポイント】

- 共通理解を図りましょう。
  - ・交流学級が決まったら、関係する職員で事前に両者のねらい、障害のある児童生徒の実態や合理的配慮や交流学級の実態などの共通理解を図りましょう。
- 指導体制を考えましょう。
  - ・障害のある子と障害のない子のねらいが達成できるように、実態を踏まえ、特別支援学級の担任と交流学級の担任、支援員等がどのように指導、支援するかなどの役割を明確に決めておきましょう。
- 環境を整えましょう。
  - ・主体的に活動に取り組めるように（活動内容や場の設定の工夫など）
  - ・安全確保（実態によっては、思わぬものが危険な場合も）
  - ・交流学級での座席の位置（支援しやすい位置、児童生徒との関わりを意識した座席など）
  - ・教室内のロッカー（取り出しやすい高さや場所など）
  - ・使用する教材、副教材について（ねらいによって、同じもの or 違うもの）
- その他
  - ・担任間だけでなく、校内の特別支援委員会等を通じて、全職員にも障害のある児童生徒の実態や合理的配慮を周知してもらいましょう。

#### ※関連ページ

実際に交流及び共同学習を進めるにあたっては、以下のページも参考にしましょう。

- ・先輩から④「学校全体で考えよう」（P 12）
- ・ 5 教育課程について（P 14～16）
- ・ 7 時間割の作成について（P 19）